

第3回 新技術・新サービスに関する検討ワーキンググループ 議事概要

1. 開催日時等

- ・開催日時：平成30年10月11日（木）18：00～20：00
- ・開催場所：合同庁舎2号館地下1階警察庁第7・8会議室
- ・出席委員等（敬称略）
 - 東京工業大学環境・社会理工学院土木・環境工学系教授 朝倉康夫
 - ITS Japan 専務理事 天野肇
 - 筑波大学副学長・理事 稲垣敏之
 - 法政大学大学院法務研究科教授 今井猛嘉
 - 自動車ジャーナリスト 岩貞るみこ
 - 東京大学生産技術研究所教授・モビリティ・イノベーション連携研究機構長 須田義大
 - 警察庁交通局交通企画課長
 - 警察庁長官官房参事官（高度道路交通政策担当）
 - 警察庁交通局交通企画課自動運転企画室長
 - 警察庁交通局交通企画課理事官
 - 警察庁交通局交通企画課課長補佐
 - 警察庁交通局交通指導課課長補佐
 - 警察庁交通局交通規制課課長補佐【代理出席】
 - 警察庁交通局運転免許課課長補佐
- ・ゲストスピーカー
 - 先進モビリティ株式会社代表取締役社長 青木啓二
- ・オブザーバー
 - 経済産業省製造産業局自動車課 ITS・自動走行推進室長
 - 国土交通省道路局道路交通管理課高度道路交通システム（ITS）推進室長
 - 国土交通省自動車局技術政策課自動運転戦略官

2. 議事進行

2.1. 開会

※事務局より開会を宣言。

2.2. 討議

高速道路でのトラック隊列走行（電子牽引（仮称）に係る後続無人隊列走行）と限定地域での無人自動運転移動サービスについて討議した。各委員からの主な意見等については、次のとおり。

【隊列走行に関する意見】

- ・ 実証実験の実施に向けて、例えば、テストコースやドライビング・シミュレータ等を用いて、実際の実験環境を模した環境での検証を行い、事前に安全性を十分確認する必要がある。
- ・ 実証実験においては、事前のテストコース等での検証では想定していなかった事態が発生した場合、速やかに実証実験を中止する必要があるだろう。
- ・ 社会的受容性の観点から、隊列走行の実証実験に遭遇した他の道路利用者の意見・感想についても、アンケート等を活用しながら多角的に情報を収集することも必要である。
- ・ 割り込み発生時の措置については、割り込み車両の安全に留意し、必要に応じて隊列を解除するべきではないか。
- ・ 割り込み発生時に、隊列を減速させて割り込み車両に安全な離脱を促す場合には、隊列が減速することを認識させることも含め、割り込み車両に対する外観表示等について、工夫が必要であろう。
- ・ まずは、後続無人隊列走行の実証実験を行うための検討となるが、将来的な実用化を見据えた検討も併せて実施していく必要があるだろう。
- ・ 被牽引車の運転者席に乗員を置く場合、同人の操作によって被牽引車の挙動に影響が出ると、万が一事故が起きたときの責任の所在が不明確となる懸念がある。
- ・ 実証実験を安全に行うためには、電子牽引が途切れた場合の措置も含めた検討が必要であろう。電子牽引が途切れた場合、被牽引車は自動的に安全に停止するシステムである必要があるのではないか。

【限定地域での無人自動運転移動サービスに関する意見】

- ・ 様々なビジネスモデルが想定される移動サービスについて、それぞれの配慮事項を議論する意味はあろう。
- ・ 新しいビジネスモデル構想に係る実証実験等を実現するためにはどのような制度整備が必要であるのか、支援する観点から議論を進めるべき。

2.3. 閉会

(以上)